



第12号

平成29年9月21日
工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司
(千葉県立柏高等学校校長)

平成29年8月1日、千葉県立京葉工業高等学校を会場として、平成29年度第2回ワーキンググループ会議（工業系高校）を開催しました。「工業高校生への育成について」をテーマで協議し、出席者は、工業系高校5校と県立学校改革推進課2名並びにコンソーシアム事務局4名でした。

また、同23日に実施されました平成29年度第7回千葉県教育委員会会議の報告1では、「『県立学校改革推進プラン』の一部改訂（素案）」が報告されましたが、改訂箇所には「普通科への工業に関するコースの設置」が示されています。

1

『県立学校改革推進プラン』の一部改訂（素案）

報告されました「『県立学校改革推進プラン』の一部改訂（素案）」の4ページ「IV プラン一部改訂、1 工業科、【具体計画の方向】」では、次のような記載があります。（一部抜粋）

※ゴシック表記の部分が改訂箇所

- 地域産業や産業振興施設との整合性を踏まえるとともに、生徒の地元への就職や地域の活性化等を考慮して、工業高校の配置やわかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成、普通科への工業に関するコースの設置等を実施し、工業教育の充実を図ります。

同ページには「《参考》工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の概要」もあり、取組実績等が示されています。

詳しくは、千葉県教育委員会のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kaikaku/miryoku/saihen/suisin-plan/itibukaisei-soan.html>

2

平成29年度第2回ワーキンググループ会議（工業系高校）

【小野会長挨拶】

コンソーシアム活動も今年度で4年目になるが、運営委員会や総会等で沢山の御意見を頂戴し、多くの研修も取り入れることにより、活動について御理解いただけていると思う。

また、お陰様で、コンソーシアム便りも11号となり、見ていただければ活動内容がわかるようになっている。これまで大企業、中小企業、商工会議所、千葉県などから御出席いただき切実な願い等も伺っている。コンソーシアム活動も3年間行ってきたが、決して無駄なことはなく、企業、諸団体等も含め、今後どのようにして工業高校をレベルアップさせていくかという礎だったのではないかと。私としては、千葉県らしい方向性の方策を見つけていきたいと思うので、よろしく願いいたします。

【協 議】

司会

WG会議で大学側から出た意見は、工業高校生は実習慣れしているが、入学後に英語と数学、理科の補習をしていることもあり、特に、首都圏の生徒は対象となることが多いということだった。大学側は、技量の前に一般教養を重視しているようだ。また、他県は面接指導を早くから実施している。千葉大学では、“頑張っって入っしてほしいと思っっているが、センター試験の点数をある程度取っしてほしい。”ということだ。

企業側からは、“県内工業高校から採りたいと思っっているが、面接の合格点が厳しいことがある。”や“簡単な筆記試験も点数が取れない場合がある。”“道徳5、体育が5で部活を行っっている生徒を採りたい。”“人間性豊かな生徒を採りたい。”“進路指導部長とコミュニケーションを取りたい。”などであっった。また、中小企業では“就職試験を受けてももらえない。”とも言っっていた。

高校側は、第一希望重視で送り出っしていることから、大企業と生徒との意見のずれは感っじている。企業からは、“高校と連携していけば採用に結びつっくのではないかと思っっている”と言っわれている。

千葉県の生徒一人一人を見るときっかりして思っっている。何とか良い方向に持っっていくことはできないかと思っている。

A 高校

工業高校全体で同じ事を目指すのは難しいと思っ思う。ほとんどの生徒が就職を希望している中、途中で大学に行きたくなる生徒もいるが、カリキュラム的には対応しきれっっていない。

B 高校

新卒者を求める企業は、対人コミュニケーション能力の養成、基礎学力の養成を重視している。コミュニケーション能力は、ただ話ができればよいのではなく、相手の言ったいことは何かを判断して対応する必要がある。企業が求める生徒像に比べ、学校は多様な生徒が入っってくる。進学に対応もしなければならぬが、現場はそれに対応しきれっっていない。

C 高校

機械・電気系は就職する生徒が多い。建築・インテリアは、専門大学が多いので特性に合わせてカリキュラムも見直っしていかなければならぬと思っっている。ベネッセを使っった朝学習の成果が出っている。

D 高校

ベネッセの朝学習も始めた。その為か、1時間目の授業を落ち着いてできる生徒が増えてきたし、遅刻もかなり減っってきた。また、推薦で大学に決まっった生徒が中だるみしてしまうので、千葉科学大学の協力で1月に52名の生徒が論文のサポート指導を受っけた。

E 高校

基礎学力の向上は、昨年度から朝学習を取り入れた。目に見えった成果は難しいが、遅刻者が少なくなり、昨年度は10%程度改善した。

司会

九州の工業高校は、面接練習を100回程度行っっていると聞っくが、現実的には難しい。面接指導は大切だが、原点に戻ると、教育課程をきちんとやっって卒業させるのが我々の基本である。本校では、SSHで論文指導として取説が書けるかなど、文字ではない技術が必要だが、学校設定科目を国語科で行っっている。広げっっていく話はあるか。

D 高校

昨年は論文指導を遅い時期に行っったので、今年はずっと早い時期に複数回行ったいと思っっている。

A 高校

進学のカリキュラムは、選択授業として大学進学向けの授業を作るのが良いのか、それとも個別で行っうのが良いのかとなるが、選択で進学者2～3名のために授業を開講するのは負担が大きいのではな

いかと考えている。

E 高校

大学や企業と連携を図りたいと思い、現在模索しているところだ。かつては、ロボットで双葉電子と連携していた。新たな連携を行えないかと思っている。

司会

キーワードが出てきた。コミュニケーション能力は、学校の授業をしっかり受けると向上するのか。

A 高校

コミュニケーション能力については、人それぞれとらえ方が違うので、全部が共通理解を持ってあらゆる機会が必要であることを取り組んでいけるかが課題だ。

司会

以後、朝学習、大学との連携、企業との連携というキーワードで話を進めていこうと思う。学校には教育方針があり、毎年度教育目標を示して人間を成長させるのがメインであり、我々は就職だけに特化した指導をしているわけではない。企業からの要望も十分参考にしながらカリキュラムを含めた指導をきちんと見直すのがよいと思う。これからの話は、まず、就職に絞って進める。コミュニケーション能力は、授業の中でどのように扱うのが良いのか御意見をお願いしたい。

A 高校

授業の方法は、教員それぞれだと思う。ベテランのオーラでしっかりできている教員もいるし、若い教員は、それなりの授業ができていると思う。お互いに見合っていけばよいのではないか。

C 高校

工業の先生も色々といて、一概に言い切れない。自信を持ち専門的な裏づけを持ってやっている人はうまく授業を行っていると思う。

司会

工業の授業でアクティブラーニングは対応できているか。

D 高校

工業科は、多くの科目で資格につながっているのも、やりやすい面があると思う。初任者の校内研修を木曜日に行っているのも、LHR 等のイベントで初任者に見せるのはよい刺激になっている。

司会

中学校のアクティブラーニングはどうなっているか。

E 高校

小中学校は進んでいる。高校は、年配の先生が自分のスタイルできている。

司会

コミュニケーション能力は、授業の中で作っていくものだと思う。企業が求めているコミュニケーション能力は、進路指導部が面接練習で行っているが、授業等を主体に醸成していく必要があると思う。

B 高校

就職対策用として、国語の学校設定科目で、皆の前に出て発表する授業を行っている。また、教室にプロジェクターを設置したので、それを使って授業をやるように校長面談でお願いしたところだ。普段使わない先生が、プロジェクターを使うと今まで寝ていた生徒が起きるようになった。

A 高校

3年生は、カリキュラムの面で課題研究があり、教科横断的に自分の考えていることを発表するので、そこにつなげるために1～2年生でどうするのかを考える必要がある。

司会

アクティブラーニングの考えは前からあり、本校では、隣の学校から研修の講師に来ていただいた。アクティブラーニングの研修を行っている学校はあるか。

C 高校

中学校との連携で授業公開を行っている。インテリア科は、取組として「高校生夢マルシェ（企業の協力によってデザインしたものを商品化）」で課題を与えてデザインするようなことしている。

司会

次の話題だ。課題研究は普通科にはないが、工業高校では課題研究が主体的で対話的で深い学びができるようになってきていると思う。就職や進学につながっていると思うがどうか。

D 高校

銚子電鉄とのコラボは、すべての課題研究のチームが行っているわけではないが、発表会で下級生に見せているのが良いと思う。

司会

課題研究を主体的で対話的で深い学びにするにはどうすればよいのか。企業と連携するものもありだと思うが、課題研究が厳しい生徒もいれば、しっかりと対応できている生徒もいる。発表会の広がり深まりについてのアイデアは何かあるか。

B 高校

本校では、S P Hの関係でポストドクターの支援を受けて英語発表を行っている。関われる先生は少ないので、そのほかの生徒もやってみたいと言っている。英語の先生に教わろうとしていたが断られ、その後自分たちでスマートフォンを使い英語に訳してから英語の先生に教わっていた。生徒に少し刺激を与えると波及するいい例だと思う。

司会

先生方が課題研究に対応できる生徒を育てていくことが大切だ。

C 高校

先日、中学校教員向けの説明会を行い課題研究の中間発表会を実施した。

司会

中学校の先生に対しても課題研究は一定の PR 効果がある。これをもっと広げると千葉県として独自の方式になるのではないか。千葉大学の高校生理科研究発表会でも、工業高校を想定したカテゴリを作った。門戸は広がり、レベルの高い学びもある。何か主体的で深い学びにするための方策はないものか。また、課題研究を深めていくことで、千葉県としてのアイデンティティを示せないものか。次回、企業や大学とのWG会議で、課題研究を通じた主体的で対話的で深い学びを学校の中、外でできることは何かを考えていきたい。今まで企業、大学、専門学校等からいろいろと話を聞かせて頂いたので、学校としてどうしていくのかを各学校で話し合ってもらいたい。「発表」がキーワードではないか。次回までに課題研究をキーワードにした取組を示していただければよいと思う。

今後の予定

- ・9月30日（土）千葉大学 高校生理科研究発表会（会場：千葉大学 西千葉キャンパス）
- ・10月7日（土）平成29年度千葉県高等学校産業教育フェア（会場：青葉の森公園 芸術文化ホール）
- ・10月19日（木）平成29年度第3回ワーキンググループ会議（就職・進学）

※今まで会員の皆様からいただきました御意見を基に、各工業系高校で取り組んできたことや今後の計画を報告し、更に御意見をいただければと思います。

- ・11月25日（土）第34回千工研総合技術コンクール（会場：千葉県立千葉工業高等学校）

【工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局】

事務局長（千葉工業高校教頭）田口 英彦

TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524